

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区大森西 4-13-11-101
園名	大田区立大森西第二保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂

<テーマの設定理由>

進級前から砂場遊びを好む子どもが多く、単に穴を掘るだけでなく、バケツや型に入れたり、お皿に乗せてごっこ遊びを楽しむ姿が見られる。また、遊びの途中で「お水を使いたい」「お花を取っていい？」と保育者に聞くなど、遊びの幅を広げたいという意欲も高まっている。これらの姿を受け、砂場や水、自然物など様々な素材を使いながら、子どもたちが自由に遊びを展開できる環境を作るために、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール (3歳児クラス)

活動内容	時間/回	人数/回
① 砂と水を使った遊び	4 5分程度	自由
② 感触遊び	4 5分程度	自由
③ ジャグを使ってみよう	4 5分程度	自由
④ 虫眼鏡で砂を観察してみよう	4 5分程度	自由

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動① 砂 タライ カップ (おままごと道具) シャベル 水

活動② 布玩具 バケツ 洗剤 紙粘土 ホウ砂 水

活動③ 砂 ジャグ バケツ

活動④ 砂 虫眼鏡 紙皿 バケツ

* 園庭に出てほかの形を探す子、室内で形を探す子などおり、個別に対応。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 活動① 自由に砂と水を混ぜて遊ぶ経験を広げる
活動② ①で砂や水の感触の変化に気付いたことから、色々な素材の感触を楽しむ
活動③ 砂場にジャグを設置して自分たちで水の量を調節しながら遊びを広げる。
活動④ 砂を虫眼鏡で観察し、砂の形を観察

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・砂場を使用して良いことを伝えるとこども達から喜びの声が挙がった。バケツに砂を入れ水と混ぜて泥を作ると、手を入れて感触を楽しむ姿や、型に入れるが上手く形が作れずに不思議そうにする姿が見られていた。砂と水の濃度を調節し、次第に形になることに気付く姿もあったまた、友だちの泥を見て「ちょうだい」と友だちの物に興味を示し、保育者が仲立ちすることで作り方を教えてもらって一緒に遊ぶ姿が見られた。
- ・泥をバケツやカップから片付ける時に逆さまにしても「出てこないよ」と話す姿が見られ、保育者が「なんでだろうね？ どうしたら出てくるかな？」と聞くと、容器を叩く子や振る子、水を足して泥を平にのぼす等のこどもの姿が見られた。
- ・泥と砂の感触の違いを楽しみ、両手に砂と泥を持って交互に握る子の姿もあった。

活動②

- ・氷に触れると「つめたい！」と驚いたり、溶けて水になる様子に「ちっちゃくなった！」と気付く子が多く見られた。
- ・寒天では「プルプルしてる」「ゼリーみたい」と感触を言葉にしながら遊び、型抜きや丸めることで形作りの楽しさも味わっていた。また、泥や水とは違う感触に「なにこれ！」と不思議そうにする様子も見られたが、泥のほうが型には詰めやすいことに気付く子や、寒天の方が透明なことに気付く子もいた。
- ・スライムでは、「のびた！」「くっついた！」と友だちに見せ合い、伸ばしたり、丸めたりして自由に遊ぶこどもたちの姿があり、どこまで伸びるのか机の端から端まで伸ばしてみる姿もあった。粘土とは違い弾力があることに気付くと「お餅みたい！」と話す子もいた。

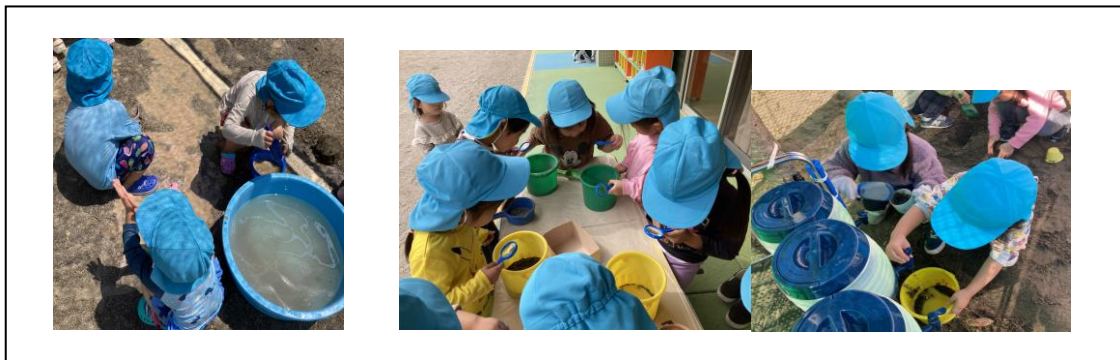
活動③

- ・ジャグの使用の仕方を伝えると皆興味を持ち、順番に自分で水を出し砂に水を混ぜていた。
- ・泥の感触を手や足で確かめながら、形が変わることに興味を示し、「お団子できた！」と喜ぶ姿が見られた。また、水を足していくと柔らかさが変わることを知り、どんどん水を足して遊ぶ様子も見られた。

活動④

- ・初めて扱う虫眼鏡に興味を示しており、約束を伝えたが数名約束を忘れてしまう子どもいた。その内、砂の観察だけでなく子どもから「お花も見たい」「ダンゴムシ見たい」と声が挙がり興味関心が高まっている様子だった。
- ・園庭に出て自由に観察してみると「こっちのお砂おっきい！（砂利）」「ダンゴムシに毛が生えてる！」「お花に棘があるよ！」など肉眼では見えなかったものに気付き感嘆の声を挙げる姿も見られていた。
- ・虫眼鏡を使用する活動は、しばらく続き、砂だけではなく色々なものを観察することが楽しい様子だった。どんなものを見つけたのか、嬉しそうに話してくれる姿が見られた。

<活動中の写真>



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

自分が今まで行っていた保育はこどもの先回りをしてばかりだったんだと気付きました。

こども達は興味のあることなら「なんで？」「どうして？」がたくさん生まれます。その疑問に対してただ答えを伝えるのではなく、実際に行ってみると疑問が解消されると同時に新たな発見や気づきが生まれるということを再確認しました。

最初の頃は砂を触ってみてもただ「楽しい」と遊んでいたこども達も、徐々に自分から「○○してみたい」「○○ってどうなってるの？」という姿が見られ、意欲や関心が高まり、自発的な行動が多く見られるようになったと感じています。

こうしたこどもの新たな気づきを大事にしながら、自分で探索が出来るよう今後も保育の中に取り組んでいきたいと思っています。